急速な高齢化の進行に伴い、介護を必要とする高齢者が増えています。社会経済や家族、地域社会のあり方が変ぼうする中で、家族による介護だけでは限界が生じてきました。

今号では、登場人物の寿さんご夫婦をモデルにして、もう一度、介護の問題と昨年４月からスタートした『介護保険制度』の内容を点検します。

特集

点検！介護保険制度

寿家の介護体験

登場人物紹介

夫　寿（ことぶき）　亀吉（かめきち）さん（70歳）

「地道」をモットーとし、沈着冷静だが、病院が大の苦手。現在、妻の鶴代と二人で年金暮らし。このごろめまいがするなど体調があまり良くない。子どもは、東京に夫と幼稚園に通う子どもと3人で暮らす娘が一人。収入は年金のみで、年額200万円ほど。

妻　寿（ことぶき）　鶴代（つるよ）さん（66歳）

「おっちょこちょい」と自他共に認める陽気で気丈夫な女性。趣味はガーデニング。東京から送られてくる孫の手紙を心待ちにしている。収入は年金のみで、年額15万円ほど。

介護保険って何？どうしていま、介護保険なの？

7月10日の昼、老後の楽しみにと始めたガーデニングに精を出している寿鶴代さん。夫の亀吉さんは、家でテレビを見ているようです。近ごろ体調が良くないようで、家から出ようとしません。「一度、病院に行ってみたら」と鶴代さんは受診を勧めますが、病院が苦手のようで一向に行く気配が感じられません。

そろそろ食事の支度の時間。鶴代さんが家に入ろうとしたとき、「寿さん。郵便でーす」と郵便配達員から声を掛けられました。孫からの手紙かと、期待を膨らます鶴代さん。孫は、東京で暮らす一人娘の子で、夏休みに遊びに来る予定なのです。

しかし、受け取った封書は、鶴代さんの介護保険料の納入通知書でした。

いつも陽気な鶴代さんもこのときはがっかり。早速、家に入り、亀吉さんとこの納入通知書を見てみると、今年の10月からの保険料がこれまでの2倍の額になっています。

思わず、鶴代さんの口からこんな言葉がこぼれました。

「介護保険って何？どうして、いま介護保険なの？」

介護を必要とする高齢者の自立を社会全体で支援

はじめに、昨年4月1日からスタートした介護保険制度の誕生の背景から考えてみましょう。

みなさんは、長寿国といわれる日本の平均寿命を知っていますか。

国の調査では、今から31年前の昭和45（1970）年当時の平均寿命は男性69・31歳、女性74・66歳でしたが、平成10（1998）年では、男性77・16歳、女性84・01歳と、この28年間に男性では約8年、女性では約10年も、それぞれ平均寿命が延びています。

では、高齢者の人口と高齢化率（65歳以上人口が全人口に占める割合）は、どうなのでしょうか。

昭和45（1970）年には65歳以上の人口は739万人、高齢化率は7・1パーセント。それが、平成12（2000）年では、65歳以上の人口は2千187万人、高齢化率は17・2パーセント。さらに平成37（2025）年では人口が減少する中にあって、65歳以上の人口は増え続け、3千312万人、高齢化率27・4パーセントになり、人口の